

三重の木を使おう、
森を育てるために



木をよく
知ろう

木と
もっと
親しまう

木を使おう

三重の林業



森林座談会 テーマ:林業現場における人づくり、仲間づくり
(関連記事2ページ)

目次	
森林政策	森林座談会 テーマ:林業現場における人づくり、仲間づくり 三重県林業技術普及協会 専務理事 福岡 秀哉 2
話題を追って	「未来への思いやり」～「自然共生サイト」認定と持続可能な森づくり～ 横浜ゴム株式会社三重工場 環境管理事務局 中田 裕二 7
話題を追って	三重トヨペット株式会社が取り組む「ふれあいグリーンキャンペーン」が 50回目を迎えました! 農林水産部 みどり共生推進課 8
話題を追って	沖中造林株式会社が第64回全国林業経営推奨行事の農林水産大臣賞を 受賞しました! 松阪農林事務所 林業普及指導員 妻藤 李白 10
頑張ってます!	高校で学んだ知識を活かし、原木の価値を見極める若き担い手 西垣林業株式会社 三重事業所マルタピア 藤原 愛海 さん 11
この人に聞く	第120回 中勢森林組合 企画課 山田 史恵 さん 小林 由依 さん 12 聞き手:津農林水産事務所 林業普及指導員 綿谷 大
連載	<三重大学>第34回 デジタル化の先に～スマート化と住民参加の森づくり～ 三重大学名誉教授 松村 直人 14
技術情報	スギ・ヒノキの苗木の品種や生産方法について ～特定苗木やコンテナ苗を知っていますか?～ 林業研究所 主幹研究員兼課長 東川 恵美 16
木材市況	木材市況(令和7年12月) 18
その他	三重の林業(令和7年11月号)を読んで ～読者モニターの皆さんから感想とコメントをいただきました～ 18

2026年1月
No. 450

バックナンバーはこちら



森林座談会

テーマ：林業現場における人づくり、仲間づくり

三重県林業技術普及協会 専務理事 福岡 秀哉

昨年度の座談会では、「三重県における主伐－再造林の進め方」について意見交換を行いました。その中で「再造林を進めようと思っても植える人がいない」また、「人材の確保が課題だ」という意見が出されました。今後、事業量の増加が見込まれる中で、いかに林業の現場で働く人を育てていくということが重要な課題となっています。また、昨年8月に開催した「三重の森林づくり講演会2025」において、講師の中島 彩さんから、本日より同じテーマでご講演をいただきました。その中で、「人材育成においても目的と目標を明確にする」「働く環境を整える」、仲間づくりについては、「みんなで学び合う関係性を築くことが重要」だといったお話がありました。

そこで、県内の各地域から、林業の職場で働いている方、森林組合や民間の事業体で経営や管理に携わっている方にお集まりいただき、それぞれの立場から、林業現場における人づくり、仲間づくりを今後どのように進めていけばよいか、話し合っていました。

座談会出席者

林業従事者：松阪飯南森林組合 長森 悠介 氏
林業従事者：森林組合おわせ 中森 圭吾 氏
林業従事者：中勢森林組合 山田 史恵 氏
林業事業体（管理者）：佐藤林業 佐藤 誠 氏
森林組合（管理者）：大紀森林組合 大野 敏弘 氏
コーディネーター：みえ林業総合支援機構 野々田 稔郎 氏
三重県農林水産部 次長 福島 康広 氏
三重県林業技術普及協会 会長 西場 信行



1 現在の仕事や林業現場で働くこととなった経緯

野々田 自己紹介も兼ねて、現在の仕事内容や林業現場で働くようになった経緯などをお話ください。

長森 東京から移住してきて6年目です。現在の仕事は、提案型集約化施業のプランナー業務の他に補助申請の業務を行っています。就職当初は現場で4年ほど働きました。就職した経緯は、当時大学生で「将来世代の権利」



長森 氏

に興味があり、それに直接関わりそうだと思って林業で就職したいと考えていました。そして、三浦しおん先生の「神去なあなあ日常」という小説の取材協力を弊組合がしており、そこに珍しく新卒募集と書いてあったので、それに惹かれて縁もゆかりも無い三重県まで参りました。

中森 三重県出身ですが、東京で17年勤めて35歳の時にUターンで帰ってきて7年目になります。現場での仕事は、主に搬出間伐や緩衝林整備、支障木の伐採のほか防護柵など造林の仕事も行なっています。東京で働いている時に東日本大震災があり、色々な物が麻痺したり、心理的にも暗い日常

が続いたんですが、そういう時に僕がやっていたサービス業とかじゃなく、第一次産業は常に必要とされる仕事だということを凄く思いました。コロナ禍もあり、生活に根付いた第一次産業に憧れがあって、尾鷲に帰ってきたらヒノキとか林業に携りたいなと思って入りました。

山田 現在は企画課に所属しており、企業の森事業とか体験イベント、体験学習の企画運営を担当しています。現場に出るのはイベントや体験学習、企業の森の現場管理のほか調査や測定の補助など週に1、2回で、あとは事務所で企画とか資料作りなどをしています。小さい時から動物や植物に興味を持っていて、地球環境問題とか生物学に関心がありました。大学では林学を専攻して森林のフィールドで仕事がしたいと思いました。20代の時に中勢森林組合に就職して5年くらい毎日のように測量や現場管理の仕事をさせてもらって、出産を機に一旦離職しました。それから7年ぐらい経った頃に声をかけてもらい、その後正職員としてまた雇用してもらっています。

2 業務の概要や人材の確保育成の現状

野々田 佐藤さん、大野さんは、業務の概要や人材の確保育成の現状なども含めてお話をください。

佐藤 業務としては、国有林の請負事業が主で市町の発注の仕事もしています。国有林の立木を買って皆伐もしていますが、森林管理署が植えてくれるので植栽はしなくてもいいです。自分の息子ともう一人が若手で、あとは40代が中心です。最近の新しい人材確保は、ちょっと難しい時代なのかなって感じています。WOOD JOB!とかがあった頃は林業に華があった気がするんですが、今はそれが無いというか、普通の会社と比べられるという感覚なんだと思っています。

大野 森林整備を中心に安全管理や人材育成、経営全般まで幅広く携わっています。職員数は20名で事務所が9名、現場が11名で平均年齢は40歳です。人材確保の面では、参事になって2年間は新規採用がほとんど無く、ハローワークや就職ガイダンス等の求人活動からSNSの求人募集に切り替えたところ、これまでに5人の採用に至りました。採用専用サイトを作ったことも大きな要因で、これまで届かなかった層にも情報が届くようになったのは大きいです。新卒2名の現場職員はフォレストワーカー研修に参加しながら、班長の下で指導して貰っています。事務職員3人も中途採用ですが、異業種の経験が新しい風を吹き込んでくれます。課題は、ベテランが新人の教育に付きっきりになると作業の進捗が遅れがちになりますが、それも育てる時間として必要な投資だと考えています。

野々田 長森さん、中森さんはフォレストワーカー研修の同期ですね。横の繋がりが出来るというのも、この研修制度のメリットかなと思います。大野さんの5人採用というのは他の森林組合の話を見ると破格の数で、SNSの活用も一つの方向のような気がします。

3 現在の仕事の魅力や課題

(林業の時間軸の長さが魅力、安全面では他産業と比べるとマイナス)

長森 林業が持つ時間軸の長さ、収益を上げるまでのタイムスパンの長さが魅力だと思っています。将来の事について前向きにも後向きにも想像する余地があるスケールの大きい仕事だと思います。それは経済林では課題の部分で、今の人達がどう収益を上げられるか、今頑張っても利益を上げられるのは後の人達だという所で、再生林がなかなか理解を得られないのが現状ですね。課題の面では、安全に関して各事業体それぞれ努力している

と思いますが、なかなかゼロにできない職業なので、他の職業と比べるとマイナスになってしまいます。需要と供給という面では、社会や地域など大きい単位で見ると需要は有るのかもしれませんが、個人から見ると「余計な事はせんといてくれ」という声も寄せられるのが現状で、その辺のミスマッチは今後益々大きくなると思っています。

(現場裁量でどれだけ成果を出せるか考えるのが楽しい、サービス業としての意識が課題)

中森 林業は班単位で動いていて、山の中では会社や世間の目も無く現場裁量が多くて、そこでどれだけ成果を出せるかを考えるのが楽しいと思います。また、大きい木を伐って狙い通りに行った時は楽しいですね。課題は、前職はサービス業のようなことをやっていたので、技術やサービスを売っているのに、サービス業としての意識が低いんじゃないかと思うところがあって、選ばれる会社として、何か加価値を付けて行けたらいいのにはと思います。山奥の怪我をしたら助からないような場所での50~60年の山の切捨間伐は怖いです。尾鷲はヒノキばかりでかかり木も多くなります。安全の話に繋がるのですが、利益を出そうと思うと慌てて作業することもあるので、山の状況次第でもう少し時間を掛けられたらと思います。

(森林に関わっている事が幸せ、配慮や気遣いは仕方のないもの)

山田 仕事の中で常に森林の事を考えていられるのは凄くありがたいがたくて、森林に関わっていること自体がこの仕事の魅力で私の幸せです。課題ですが、女性であるが故に困った事を探してみたんですが、例えば、女性だから過酷な現場に行かせないとかの配慮があったり、男性同士なら気にしなくていい事も私が一緒の時は気にしないとイケないとか、女性であるというだけで気を遣わせていたら嫌だなと思ったり、一緒に現場に行きたくないと思われてたら嫌だなと思うことはありました。とはいえ、私が80歳のおじいさんと山に行くことになったら、険しい所を歩かせられないとか高齢者であるというだけで気を遣ったり、できれば一緒に行きたくないと思うと思うんです。なので、配慮とか気遣いは嫌だと思っても仕方ないものとして、私が行きたければ行きたい、出来る事であればやりましようと言うだけでいいと思っています。



中森氏



山田氏

4 組織が求める人材や人づくりを行う上での課題、工夫している事

(考え方を育てるのは難しい、木が伐れればどこでも飯は食っていける)

佐藤 お二人が言われた、林業の長いスパンや現場での考え方が凄いなと思ったんですが、こういう考え方にどうしたらなってくれるのか。声で言っただけだと若い子達はそこまで頭が回っていない。当人が大事な事だと思っていなければ言われているだけになる。この先自分達がいなくなった時にそういう考え方が出来るようになって欲しい。考え方を育てるのは難しいと思いますね。うちはほとんどが現場作業で、森林組合さんは事務員の割合が凄く多いイメージがあります。自分の考えでは、いくら事務が出来ても木が伐れなかったら先に進まないのだから、木が伐れればどこでも飯は食っていけるとしています。だから、チェーンソーだけは使えるようにする事を前提にしています。

(素直が一番、若い世代にどう伝えていくかが課題)

大野 求める人材ですが、まずは素直が一番で、それから挨拶ができる人です。自分の仕事が地域の為になっているという意識を持てる人が集まると組織が良くなっていくと思います。林業はすぐに結果が見え難い仕事と



大野氏

ということもあって、そこをどう伝えていくかがこれからの課題だと思っています。森林組合では、補助事業とか色々な面で、測量や調査、組合員との関わりなど事務手続が有りますので、事務職員もそれなりに必要になるとしています。今後は、資格を持っている人は所得とか待遇面に反映させていくなど、モチベーションが上がる方策を考えています。

野々田 課題も含めて状況をご発言いただきました。西場会長、何か聞いておきたい事はございますか。

西場 印象深く思ったのは、長森さんの林業の長いスパンの話で、植えて何十年もしてから採るという課題を整理して、林業とはこういうものだという事を若い人にどう伝えるか、これからも探究して頂きたい。

野々田 何か言い残した事があればお願いします。

(単価が上がらないと安全作業は難しくなる)

中森 木を伐る時は、胸高直径20cm以上は受口を必ず作るようにガイドラインが変わったと思うんです。そうなった時に、今までより時間が掛るはずなのに、単価が上がらないから無理しなきゃいけない所も有るんじゃないかと思うので、伐期を迎えて大きな木になって来ている中で、予算が増

えても単価が上がらないと安全作業が難しいのかなと思います。

佐藤 入札の場合だと100%で取ればもしかしたらゆっくり仕事出来るかもしれませんが、伐倒の単価がもの凄く安いと思います。うちは平成20年位から補助金を一切貰わない経営に切り替えました。補助金を貰うと売上げは上がるんですけど、その分事務員もいるので何をしているのか分からなくなってきて、全く逆にしたということです。

西場 間伐補助は受けないんですか。

佐藤 昔は森林整備加速化事業とかもやって来たんですけど、事務が半分掛かるんだったら、逆に無駄を省いて、20万円/haで間伐しないといけないなら10万円/haで出来るようにする。



佐藤氏

それで、補助金は貰わず木の売上だけで所有者負担無しで出来ないかを追求しています。最近ではJ-クレジットで企業さんに協力して貰うとか、山の売込み方が変わってきました。今までの林業は皆伐して木材価格だったのが、立ってる木に付加価値が付くのがJ-クレジットなので、これも商品になると思っています。

5 みえ森林・林業アカデミーの人材育成について

野々田 アカデミーを受講してどうだったか、今後に期待する事などを含めてご発言をお願いします。

(知識の幅が広がった、実践の場になって欲しい)

長森 2年前にプレイヤーコースを修了しました。現場で即実践というより概念的、概論的な物だったので、知識の幅が凄く広がったということで、自分達がやっている方法と違うオプションを比較する様になれたと思います。僕の感想ですが、立候補して行く場というより、行ってくれと言われて行く場になっているかもしれません。もっと実践寄り、知らない林業を生で見れる、そんな場になってくれたらいいと思います。

(知識の量や考え方に影響、発言力を得るためのテクニックなど)

中森 去年マネージャーコースを受講させて頂いて、直接現場に関わる知識という訳では無かったので、直ぐに仕事にということは無かったんですが、知識の量が増えたのと考え方にも影響があったと思います。会議のやり方や周りの意見の聞き方が変わったとかはあります。会社に話をする時に、相手の意識を変えとか、雰囲気づくりって凄く大事だと思うんです。発言力を得る為の空気作りとか、新しい事をやるためのテクニックみたいな

所がもっとあると、成功体験なども活かしやすいかなと思います。

(フォレストワーカーで学んだ技術を生かす知識などもう一つ先が欲しい)

佐藤 たまにそういう研修に行かせて他の会社の人と喋ったり、周りを見て自分の所を知る事にも繋がるので行かせる気は有るんですが、立派な講師の名前が並んでいて生徒の反応を聞くと、この人達が喋る場所にしては勿体ないように感じました。もう少し踏み込んだ、フォレストワーカーで学んだ技術を生かす知識などもう一個先が欲しいと思います。あと、林業技能検定の合格に繋がるような事をやっても面白いと思います。

野々田 理論的な話や概論は一流の講師の方々が話をしており、非常にいい機会を与えていると思います。実践的という所でギャップが有るというお話だと思います。アカデミー立上げ時には、実践の場は各現場で教えて頂いて技術を磨いて貰い、一般の人に林業とはどんな物、どういう効果が有るということを林業関係者誰もが語れるようになって欲しいという想いもあり、あのカリキュラムになっていると思います。

福島次長、何かコメントがあればお願いします。

福島 受講した結果から、少しギャップがあるということは感じていますが、アカデミーの趣旨・目的は、林業についてしっかり話が出来ようになって頂くこと、知識を付けて貰った上で現場で働いて頂くことです。



福島次長

直ぐに効果は見ええないと思うんですが、将来的に組合や会社組織の方向性を考えながら仕事を進めていくことが出来る人材育成ということで取り組んでいますので、ご理解頂きたいと思います。

6 人づくり、仲間づくりを行うためには

(将来を見据えたキャリアパスを提示する)

長森 他の職業と比べると危険度は高いし身体負荷も大きいのは、今の機械や技術力じゃどうしようも無い問題だと思います。給料面も全産業平均と比べると低くなっている。この中で、続ける仲間を見つけるためには10年後、20年後と見据えた上で、こういう人が欲しい、君はこういう人になって欲しいと組織側が提示して、それでいきたいと思った人を真正面から入れなくてはならないと思います。悪い面にもきちんと向き合って、是正していきながら、林業にしか無い良い面を見つけていく努力が必要だと思います。

野々田 こういう事をやって貰ったら職場にいや

すいという事はありますか。

長森 僕自身が5年後どうなるという事について提示が無いのではと思っています。もし、5年後ここにいたら、こういう事業をこれだけの規模にするから、これだけ出来るように成って欲しい、だから今はこれ位っていう、現場と管理側のミスマッチを徐々に減らせないかなと思います。

野々田 キャリアパスみたいな形ですかね。

長森 どうしても目先を重視してしまうので、そういうのが無いと若い世代は何の為にという所が満たせなくなるのではないかと考えています。

(新人の成長を任せ切りにしない、安全とサラリーの面で良いイメージがあれば)

中森 優れた実務者が必ずしも優れた指導者とは限らないので、教える側も指導の仕方を学んでいく必要があると思います。会社は指導者と指導される者に成長を任せ切りにせず、本人が設定した目標と目標までの進捗をしっかり把握することが大事だと思います。新しい人を入れるには、安全とサラリーの面で良いイメージがあったらいいと思います。あとは、子供や若い子の目に触れる機会がもっとあって、林業が格好いい仕事、憧れの仕事と思って貰えるようなイメージ作りが大事だと思います。

(ライフワークバランスを保てる状態であること、仕事ありきではなくて人ありき)

山田 私個人は仕事以外の時間を確保したいというのが一番なので、いいライフワークバランスを保てる状態であるということが仕事を続けるための第一条件です。次にワークの部分が自分のやりたい事、楽しい事であることなので、そういう環境であれば、私は続けられると思います。長く続けていける人を増やす為には人を尊重することです。仕事ありきではなくて人ありき、仕事に人を合わせるのではなくて人に仕事を合わせるということを意識することだと思います。

(現場で働いてたらそんなに離職しない)

佐藤 ひと手間でも少なく、その仕事をいかにスムーズに行うかを重視しています。現場で働いてたらそんなに離職しないんじゃないかと思っていて、難しい事務仕事は現場の作業員には一切振らないで現場に集中して貰っています。嫌で辞めていった人はほとんどいなくて、前向きな離職が多かったのが、間違えた人の育て方はしてないと思っています。林業にはバイタリティがある人が来るんですが、違う事に目を向かれる可能性もあるので、そこをどう繋ぎ止めるかということも必要かなと思います。

(風通しのいい職場、離職者も林業で頑張っている)

大野 風通しのいい職場ということを心掛けています。問題があっても連絡も報告も無いのが組織にとって一番厄介なので、どんな立派な計画を立てても小さな問題を拾っていかなければ改善には繋がりません。「安全第一、ゼロ災害」が第一の目標なんですけど、二つ目に「人づくり」を掲げています。5年~10年現場を経験すると独立を考え始める人がいます。出来る人は尚更ですが、独立して他産業に行くんじゃなくて林業で頑張ってくれています。抜けられると痛いという気持ちもあったんですが、人が育ったと考え、協力会社として仕事を分担してやっています。安定した生活や休日をしっかり欲しいという方には、森林組合はいい組織だと言われるように環境作りや労働条件を改善していきたいと思っています。

野々田 安全と待遇ということが皆さんの口から出ました。それから職員とのコミュニケーション、このあたりがキーワードのような気がします。

(皆で経験値を共有する場があったらいい)

中森 作業班全体で経験値を共有する場があったらいいと思います。例えば、防護柵をやる時にどの紐から引っ張って行くか、杭を打つ時にどこの杭を打つか班によって違うんです。それぞれ理由が有るんですけど、バラバラだったりするので、それを一つに纏めて次に繋がる物を作っていけたらと思います。

(安全は何よりも優先、皆が学び合える職場に)

大野 事務職員で現場を経験した者がいるので、現場の人も仕事がやり易いです。色んな事を協力して出来ますし、現場を経験した事務担当者が安全会議で情報を共有してくれます。安全は何よりも優先するという事で、事務所と現場が協力してやっています。人づくりに関しては、皆が学び合える職場にしていきたいと思っています。

野々田 長森さんは、最近現場から中に入りましたね、経験が活かしていますか。

長森 やっぱり目線が違うなどは思うので、たかが4年現場にいただけですけど、現場の従事者との話し合いもずっと出来ますし、リアルな話が出来るのは貴重な財産かなと思っています。

野々田 安全に関して佐藤さんから、作業をスマートにやることで事故を防げるんじゃないかというご発言がありました。

(いらぬ物は減らしていく)

佐藤 うちはいらぬ物、重荷になりそうな物を減らしていく考えなので、今日その道具が必要無いなら持たないし、燃料とかも、ここへ置いたら無くなるまではチェーンソーだけ持っとれば良いという風に、不必要な物を持っているという負担を

減らすとか、木を伐る時に周りの雑木を余分に伐っていたら、本当なら一本3分で伐れるのに、チェーンソーで10分他の雑木を伐ってると10分危険に触れている時間が長くなるという感覚というか、必要最低限の事だけ安全に出来ればいいんじゃないかと思っています。

野々田 段取り力みたいなことですね。これは山仕事では非常に重要なんだと思います。一通りお聞きしましたが、この際に言うておこうという事がありましたらお願いします。

(技術に塗り替えられない人の持つ能力を魅力に)

長森 AIによって仕事が無くなるというニュースがある中で、林業ではそんな事は微塵も感じないので、そういう技術に塗り替えられない人の持つ能力を魅力として発信できるだけの下地を整えていければ、より良い業界になると思います。

7 まとめ

野々田 私共の研修では、目標人物像を作ってこういう人材を育成するという形でカリキュラムが組まれています。それで、それぞれの職場でまた工夫をされて人材を育成されているという話を伺う事が出来ました。



野々田氏

格好良い林業という話もありましたが、毎年チェーンソー技術競技大会をやっていて、チェーンソーを操作する姿が格好いいと評判です。そのような形で格好良さを強調して人を集めるというのも一つの方法かなと思います。人を集め、教育し、人材を育成して長くいてもらうために、今後も話を出来たらと思います。それと、もう少し業界間で情報共有を出来る場が作ればと思います。そういう場づくも今後考えるべき課題なのかなと思いました。本日は非常に参考になるお話だったと思います。

西場 昨年は主伐-再造林をテーマに議論したんですが、やっぱり人材をいかに確保して育てていくかが重要な課題になってきたと思います。今日は皆さん方の話を聞かせて貰って、それを関係者で共有していくという事でございます。目標とする人物像という話がありましたが、そのような人物像が身近にいと、皆がそれに向かって動くようになる。今日お集まりの皆さん方が三重県の林業のロールモデルになって、さらにご活躍されることを心より祈念申し上げます。本日はどうも有難うございました。



西場会長

「未来への思いやり」 ～「自然共生サイト」認定と持続可能な森づくり～

横浜ゴム株式会社三重工場 環境管理事務局 中田 裕二

生物多様性の保全を目指す国の制度である「自然共生サイト」に認定されました。

(生物多様性保全活動への取り組み)

横浜ゴム株式会社 三重工場（三重県伊勢市）が、2025年9月に国が認める「自然共生サイト」に認定されました。これは、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として保全する世界目標（30by30目標）の達成に向け、環境省が2023年から運用を開始した制度です。

三重工場は、健全な生態系が存する場を維持する活動を実施している点が高く評価されました。特に、トノサマガエルなどの希少な動植物種が生息していること、CO2吸収量解析、リター（地面に落ちて堆積した葉や枝）の堆肥化など、脱炭素型物質循環の考え方を取り入れていることが評価のポイントとなりました。なお、こうした生物多様性保全活動は、これまでも高い評価を受けており、2022年2月には一般社団法人「いきもの共生事業所®認証（ABI NC認証）」を取得しています。



三重工場内の緑地

(持続可能な森づくり)

横浜ゴムでは、「YOKOHAMA千年の杜」として、創立100周年に当たる2017年までに国内外の生産・販売関連拠点に50万本の苗木を植える活動を2007年に開始しました。2017年9月に目標を達成した後も活動を継続しており、2024年度末までに国内14拠点、海外8カ国22拠点で合計140.0万本の植樹と苗木提供を実施しました。今後も、2030年まで

に累計150万本を目標に、国内外の各拠点で活動を推進していきます。この活動は地域生態系と調和した緑地の創出に貢献するだけでなく、苗木の成長量の調査を通じてCO₂の固定量を算出するなど、地球温暖化対策にもつながっています。

(地域連携による「企業の森」活動と未来への教育)

「YOKOHAMA千年の杜」プロジェクトの一環として、三重工場は地域行政との連携による森づくりにも積極的に取り組んでいます。2010年から「企業の森」づくりに協力し、2021年からは度会町と「横浜ゴム悠久の森」づくりを進めています。

度会町の獅子ヶ岳周辺の山林約2.6haをフィールドとし、三重工場の生物多様性保全メンバーや度会町職員、そして従業員やその家族が参加したハイキング・植樹イベントなどを通じ、2025年10月末現在で468本を植樹しました。植樹後の除草や補植といったメンテナンスも定期的を実施し、森の健全な成長を支えています。



度会町の山で企業の森活動

また、未来を担う子どもたちへの環境教育にも力を入れています。2016年より開始した小学生への環境学習講座では、工場内の緑地を利用し植樹体験を実施しています。この活動には、三重工場内で育てた自前の苗木を利用しており、近隣住民や市内イベントにも苗を提供することで、地域全体の緑化推進にも貢献しています。

横浜ゴム三重工場は、これらの活動を通じて、地域社会との共生を図りながら、生物多様性の保全と持続可能な森づくりを推進してまいります。

三重トヨペット株式会社が取り組む「ふれあいグリーンキャンペーン」が50回目を迎えました！

農林水産部みどり共生推進課

三重トヨペット株式会社が取り組む「ふれあいグリーンキャンペーン」が50回目を迎え、令和7年11月7日(金)、苗木の目録贈呈式が開催されるとともに、「三重トヨペットの森」森づくり宣言書調印式が行われました。また、令和7年11月24日(月)には、「三重トヨペットの森」(大台町)において、植樹祭が開催されました。

(三重トヨペット株式会社の取組)

「ふれあいグリーンキャンペーン」は、三重トヨペット株式会社が、地域に緑を増やし、次世代へ豊かな自然環境を引き継ぐために、三重県をはじめ県内各市町へ苗木を寄贈するとともに、従業員の皆さんからの「緑の募金」を公益社団法人三重県緑化推進協会に寄贈する取組で、昭和51年の取組開始以来、毎年継続的に行われ、このたび50回目を迎えました。

また、三重トヨペット株式会社は、50回目の「ふれあいグリーンキャンペーン」を記念し、これまで行ってきた苗木寄贈や植樹などの「木を植える活動」、三重県「木づかい宣言」に基づく「木を使う活動」に加え、新たに「木を育てる活動」として、「企業の森」の活動をスタートさせることになりました。

(第50回ふれあいグリーンキャンペーン目録贈呈式)

11月7日(金)、三重県庁プレゼンテーションルームにおいて開催された目録贈呈式には、三重トヨペット株式会社から川喜田会長、井上社長、川喜田副社長、中日新聞社(特別協力)の阿部三重総局長、公益社団法人三重県緑化推進協会の真弓専務理事、県からは野呂副知事、柘屋農林水産部長が出席しました。



目録贈呈式での記念撮影

式典では、井上社長から野呂副知事へ、苗木の目録が贈呈されました。今回は、県内の10箇所(4小中学校、4市町、2県施設)に合計393本の苗木が寄贈され、これまでに寄贈された苗木は、累計で8,783本となりました。

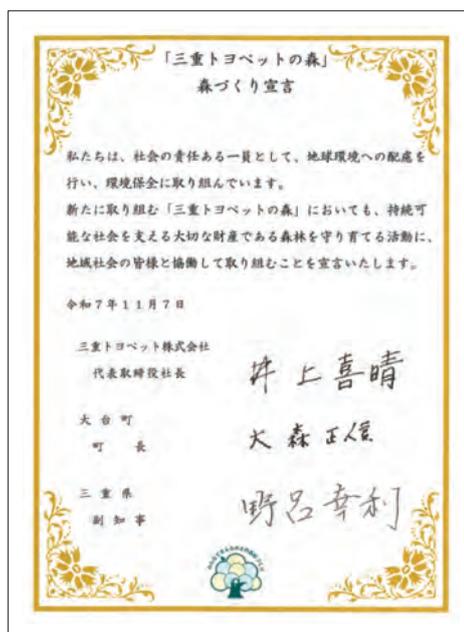
野呂副知事は、50年の長きにわたる緑化推進活動への深い感謝の意を表するとともに、井上社長に感謝状を贈呈しました。

その後、川喜田副社長から、公益社団法人三重県緑化推進協会の真弓専務理事に、三重トヨペット株式会社従業員の皆さんからの「緑の募金」が贈呈されました。

(「三重トヨペットの森」森づくり宣言書調印式)

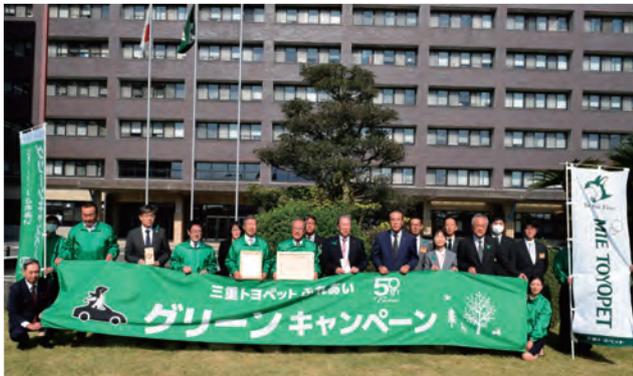
目録贈呈式に引き続き、「三重トヨペットの森」森づくり宣言書調印式が行われました。

調印式では、井上社長、「三重トヨペットの森」の所在地である大台町の大森町長、野呂副知事の3者が、森づくり宣言書に署名しました。井上社長は、『ステキな三重を、未来の子どもたちへ』を合言葉に実施してきた『ふれあいグリーンキャンペーン』が50年の節目を迎え、これからは植えるだけでなく、その木々が健全に育ち、豊かな森となるまで見守り管理していく『企業の森』活動を通じて、森林の持つ多面的な価値を次世代に引き継いでいく責務を果たしていく。」と語りました。



「三重トヨペットの森」森づくり宣言書

県では、森林を社会全体で支えていくための取組の1つとして、森林づくり活動を検討する企業と森林所有者のマッチングを支援する「企業の森」の取組を推進しています。「三重トヨペットの森」は、県内では66件目、大台町では3件目の「企業の森」となりました。



県庁前での記念撮影

(植樹祭の開催)

11月24日(月)、50回目を迎えた「ふれあいグリーンキャンペーン」を記念して、「三重トヨペットの森」において植樹祭が開催されました。当日は、一般公募による地域住民の皆さんや三重トヨペット株式会社の顧客、社員とその家族など、多くの方々が参加しました。

まず、大台町B&G海洋センターにおいて、「木育ワークショップ」が実施され、参加したお子さんは、木のくるまづくりに夢中に取り組み、思い思いに模様つけや色塗りをした後、コロコロと走らせ楽しんでいました。その後、参加者はバスに分乗し、大台町大井の清流・宮川沿いに広がる「三重トヨペットの森」へ移動しました。

(多様な広葉樹による森林づくり)

植樹会場の「三重トヨペットの森」では、今回の森づくりを技術面で支える宮川森林組合の職員が参加者を迎えました。

宮川森林組合は、従来のスギ・ヒノキを中心とした画一的な林業から、より自然環境に即した新しい林業の形を模索し、地域で自生する樹木の種子から苗木を育てる「地域性苗木」の活用や多様な樹種を不規則に植える「自然配植」に取り組んでいます。三重トヨペット株式会社は、宮川森林組合が取り組む自然と人との共生をめざす森づくりに深く賛同し、「三重トヨペットの森」での森づくりに、そのノウハウを採用することになりました。

参加者に配られたのは、タブノキやウラジロガシといった40種類の広葉樹900本で、この土地本来の植生を構成する地域性苗木です。宮川森林組合の職員からは、「人工林のようにきれいに列を作って植えるのではなく、木々が自然に芽生えるように、少し



植樹方法の指導

不規則な形に植えてほしい。これが、多くの生き物が集まる豊かで、災害に強い天然林のような森を育む第一歩になる。」との説明が行われました。

その後、参加者は、スコップを手に汗を流しながら、一本一本丁寧に苗木を植えていました。三重トヨペット株式会社における苗木の寄贈本数は、このたびの植樹祭における植樹をあわせると、累計で9,683本となりました。



みんなで植樹

(おわりに)

このたび、「三重トヨペットの森」では、自社関係者に加え、県民の皆さんにも広く参加を募り森づくり活動が行われました。三重の豊かな森林を未来につなげていくために、今後も引き続き、地元企業と県民のみなさんが、ともに協力しながら進める森づくり活動の促進を図ってまいります。



植樹会場での記念撮影

沖中造林株式会社が第64回全国林業経営推奨行事の農林水産大臣賞を受賞しました！

松阪農林事務所 林業普及指導員 妻藤 李白

1. 全国林業経営推奨行事とは

全国林業経営推奨行事は、森林の適正な管理並びに林業の技術・経営の改善に努め、森林の有する多面的機能の発揮及び林業の持続的かつ健全な発展に寄与している森林の管理経営体を表彰するものです。昭和37年に始まり今年度までに2,410団体が受賞されています。



小坂林野庁長官(左)と沖中祐介氏(右)

今回、沖中造林株式会社（以下「沖中造林」という）が受賞した賞は、最優秀である農林水産大臣賞であり、地域に根差した林業を行っている点や、女性現場作業員を雇用している点などが評価されました。

2. 沖中造林について

沖中造林は明治の頃より140年続く、松阪市飯高町の波瀬地域を中心に林業を行っている会社です。

波瀬地域の林業の特色は、吉野林業の流れをくみヘクタールあたり5～8千本という高密度植栽、丁寧に何回も行う下刈りと枝打ち、弱度高頻度の間伐を行う事が挙げられます。100年以上前に初代・沖中由松氏が植え育てた木を、昔とほとんど変わらない方法で守り続け、令和4年9月に社長に就任した6代目の沖中祐介氏（以下「祐介さん」という）まで受け継がれており、約1,000haにもなる沖中造林所有の山からは、日々、年輪が密で均一な質の高い材が生産されております。

この度、祐介さんに林業経営についてお話を伺いましたので、その一部をお伝えします。



沖中造林株式会社の山林

3. 沖中造林のめざす林業について

祐介さんは次のようにおっしゃっていました。「沖中造林の木に高値が付くのはご先祖様の努力のおかげ。今から同じ木を作ろうとしても作れないと思う。だから沖中造林の山を自分の代で台無しにしないよう、これから100年後に素晴らしい山を引き継げるよう頑張っている。近年、ヘクタール2千本といった低密度植栽の施業をよく耳にするが、沖中造林ブランドの評判を下げるリスクは選択できない。昔ながらの高密度植栽やきめ細やかな枝打ちを続け、しっかりと波瀬地域の林業を守っていきたい。」

4. 新たな取り組みについて

伝統を重んじる祐介さんですが、新しいことに挑戦することも大事にされています。沖中造林はこれまで育林した山の立木を素材生産業者に販売する経営方式でしたが、祐介さんが経営に携わるようになってから、利益向上を目指して自社での素材生産体制へ転換し、販路の拡大に取り組んでいるそうです。

また、マイホームを建てる方を対象とした体験型森林ツアー事業「プレミアムウッドツアー」を実施したり、「100年杉の木彫りカヌー製作プロジェクト」に携わったり（詳細は「三重の林業2019年3月号『話題を追って』』と、様々な取り組みを行い地域の林業・木材の魅力を発信しています。

そんな祐介さんは普段から従業員にも「チャレンジ精神を持ってほしい。やってみてダメならやめればいい。」とお話ししているそうです。

5. 女性従業員の雇用について

沖中造林には令和6年4月より女性の現場作業員が就労されていますが、祐介さんに雇用の経緯を尋ねると「林業は男の現場っていうのは固定観念だと思う。女性にもできることがあるはずだと思っただ。今では測量、選木から林業機械操縦、さらにはチェーンソー伐採も任せている。」との事です。（詳細は「三重の林業2024年7月号『頑張ってます！』』

6. 主伐再造林の方針に対して

「最近、全国的に主伐再造林が推進されているが、そもそも木材に「収穫期」はないと思う。木材の用途は小径木から大径木まで様々で、それらをいつ伐採するか、どんなものを出材するかはそれぞれ林業経営者が判断していくものだと考えている。主伐再造林への転換は多少必要かもしれないが、どんな山にすべきかを今一度考え、間伐の重要性も理解してほしい。」と熱く語られました。

高校で学んだ知識を活かし、原木の価値を見極める若き担い手

西垣林業株式会社三重事業所マルタピア 藤原 愛海 さん

今回は、原木市場を運営する西垣林業株式会社三重事業所マルタピアで働く、入社3年目の藤原愛海（まなみ）さん（21）にお話を伺いました。



3年目の藤原さん

◆「林業」との出会いから就職まで

中学生の頃、進路に悩んでいた時に参加した久居農林高校の学校見学がきっかけです。木製品の展示や演習林の写真を見て「カッコいいな」と感じ、進学を決めました。高校で林業について学ぶうちに、その知識を直接活かせる仕事に就きたいという思いが強くなり、西垣林業株式会社への就職を希望しました。

◆実際に原木市場で働いてみて

現在の主な業務は、フォークリフトでの原木の荷降ろしや積み込み、重機を使った木材の仕分けです。樹種による区分はもちろん、A材・B材や木の曲がり、節の状態などから木のグレードを見極め、適切な価格での販売につなげる重要な役割を担っています。

実際に働いてみて驚いたのは、天候や季節によって注意すべき点が変わることです。大変な仕事だという覚悟はしていましたが、夏は熱中症対策、冬は原木が凍って滑りやすくなるため、フォークリフトでの旋回時に特に注意が必要になります。自然と向き合う仕事ならではの難しさを日々実感しています。

入社当初は重機の操作に戸惑いましたが、新入社員一人ひとりに指導担当がついてくれるので、気軽に質問しながら業務を覚えることができました。

◆仕事のやりがいと心掛けていること

積み込みや荷降ろし作業の際に、お客様から「上達したね」と声をかけてもらえる、やはり嬉しいですね。また、上司から「頼りにしているよ」と言われたときは、自分の成長を実感でき、大きなやりがいを感じます。

業務では常に「安全第一」を徹底し、危険と隣り合わせであることを意識しています。そして、扱っているのは自分のものではなく「お客様の大切な商材」だという気持ちを忘れないようにしています。例えば、グラップルで原木を掴む力が強すぎると木を傷つけ、商品価値を下げてしまいます。そうしたことがないように、丁寧な作業を心掛けています。



重機作業を行う藤原さん

◆今後の抱負

今はまだ経験が少ないですが、桎列（はいれつ：市のために木を並べる作業）を一人で完結できるようになるのが目標です。将来的には、出荷者の方と「どんな材を搬出してほしいか」といったコミュニケーションを取れるようになりたいです。

また、購入くださった製材所へ出向いて、原木がどのように使われているのかを学びたいと思っています。製材所の方から「あの木を製材してみたら、実はこうだったよ」とか「伊賀産の材はこういう特徴があるんだね」といった現場の生の声を直接聞くことは、私にとっての「答え合わせ」になります。市場での見立てと実際の結果を照らし合わせることで、より正確な目利きを目指して、原木市場と製材所との間のギャップを埋める役割を担っていきたいです。

第120回 中勢森林組合 企画課 山田 史恵さん 小林 由依さん

聞き手：津農林水産事務所 林業普及指導員 綿谷 大

今回ご登場いただくのは、中勢森林組合企画課の山田史恵さんと小林由依さんです。中勢森林組合では、森林の大切さや働き、木材の利用意義等を伝える森林教育などに積極的に取り組んでいます。こうした取組の内容や意義などについて話を伺いました。

Q. お二人の自己紹介をお願いします。

(山田さん)

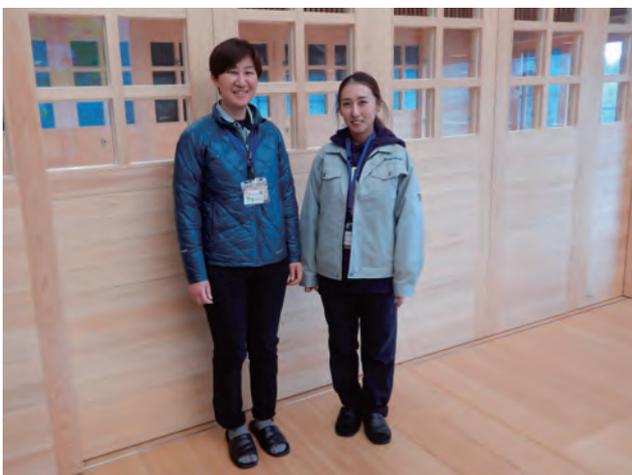
A. 20代の時に中勢森林組合に就職して、測量・調査や現場管理の業務に5年就いていましたが、出産を機に一度離職しました。

それから7年経って、再び森林組合で働くこととなり、最初はアルバイトで復帰しましたが、令和2年度から正規採用となり、現在は、Jクレジットや森林境界明確化に関する業務のほか、企業の森や森林教育関係の業務を担当しています。

(小林さん)

A. もともと保育士をしていたのですが、子育てとの両立がなかなか難しいこともあり、森林組合の事務職に転職しました。

森林組合では、総務課の庶務を8年担当していましたが、今年度から企画課に異動となり、課の庶務全般を担うとともに、保育士の経験を生かして、森林教育関係の業務に山田さんと一緒に携わっています。



山田さん（左）と小林さん（右）

Q. 中勢森林組合では森林教育などに積極的に取り組んでいるとのことですが、具体的にはどういった取組を行っていますか？

(山田さん)

A. 主に次のようなことに取り組んでいます。

- ・「企業の森」活動における木工体験や森林に関するミニ講座
- ・津市との「カーボンニュートラルの実現に向けた森林の維持管理・保全及び活用の推進に関するパートナーシップ協定」に基づく木育イベントや林業体験
- ・地域や企業からのニーズに応じた森林学習
- ・県が取り組むジュニアフォレスター育成講座の講師



松菱での木育イベントの様子

Q. 実際に取り組んでいてどうですか？

(山田さん)

A. 森林組合に再就職してから、企業の森や森林教育関係の業務の担当になりましたが、最初は、人に伝える、教えるといったことに苦手意識がありました。

林業の現場経験がほとんどないので、「知識はあっても、面白い話ができないし・・・」と思っていました。そうした中、「LEAF」や「インタープリテーション」（知識や情報を教えるだけでなく、自然観察などの体験を通じ、対象者に気づきを与えたり、興味を起こさせる技法）の研修を受ける機会があり、参加者が

主体的に学ぶ「アクティブラーニング」の実践練習をした時に、自分自身がとても楽しかったんです。

それからは、まずは自分自身が楽しいことを意識して、自分が好きな学術的な話（なぜ間伐をするのか？など）を体験しながら学んでもらえるよう企画することを心掛け、楽しくできるようになりました。

(小林さん)

A. もともと保育士をしていて子どもが大好きなので、子どもに関わることができてとても嬉しいです。私は、森林や林業についてはまだまだ勉強中で、森林に入ったこともほとんどなかったの、見たことのない植物や虫を発見したりして、とても楽しんでいます。この楽しさを子どもたちをはじめ多くの人に伝えられるようになればいいなと思っています。



企業の森での植樹活動の様子

Q. 「人に伝える、気づきを引き出す」ってなかなか難しいですね…？

(山田さん)

A. 「LEAF」の研修には保育士の方もたくさん受講されていて、そのあたりがすごく上手なんです。そのことを職場でアピールしたら小林さんが企画課に来てくれて、とても心強く思っています。

私は、子どもたち相手でも、どうしても事務的になってしまったりするんですけど、小林さんはさすが！子どもたちをその気にさせるのがうまいんです。

(小林さん)

逆に私は、森林・林業の知識がまだまだなので、山田さんから知識を深める機会をいただいています。お互いの強みを生かし合い、より良いものになるよう取り組みたいです。

Q. 子どもたちをその気にさせる秘訣は？

(小林さん)

A. まずは一人ひとりをよく観察し、積極的に仲良くなります。そして一緒に楽しみます。

Q. 森林組合が森林教育等に積極的に取り組む意義についてはどう考えていますか？

(山田さん)

A. 「LEAF」の考え方では、「環境について自ら考え行動できる人」の育成を目指します。例えば、「森林の働きや木材の利用意義について知っていて、何かを購入する時に、価格や利便性だけでなく、環境への影響を考えて木造や木製品を選ぶ人」を育てるといった感じでしょうか。

自ら環境のことを意識して木を使う（木製品を選ぶ）人や、職業として林業を選ぶ人が増えたら、私自身とても嬉しいことですし、森林組合にとっても、事業の拡大などにもつながる非常に意義のあることだと思います。

(小林さん)

イベントの時に、「森林組合ってこんなことをしてるんだ！」と声をかけてもらったりして、私たちの仕事を知ってもらう良い機会になっていると思います。

間伐体験の時などは、現場職員の方にも協力してもらっていますが、皆さん協力的で、事務所で見るよりも楽しそうに見えます。直接聞いたことはないですが、自分たちの仕事を知ってもらうことに喜びを感じてもらっているのではないかと思います。

Q. 今後の抱負は？

A. 子どもも大人も森林に入ると生き生きとしていて、森林を体験してもらうだけでも価値のあることだと思います。

自分たちで集客して実施するのはなかなか難しいと思いますが、ニーズがあった時にしっかり対応できるように体制を整備して、自分たち自身も楽しみながら、多くの人に森林や林業を体験し、学ぶ場を提供していければと思います。



ジュニアフォレスター育成講座の様子

<三重大学>第34回 デジタル化の先に ～ スマート化と住民参加の森づくり ～

三重大学名誉教授 松村 直人

アナログからデジタルへ：一見進んでいるように思われますが本当でしょうか？森林も見える化、デジタル化によって、我々との関係性はアップデートされるのでしょうか？ちょっと気のきくAIなど新技術の応用で住民参加の森づくりへの展開を

はじめに

近年「スマート農業」に代表される農林水産業分野におけるICT（情報通信技術）の活用が期待されています。森林・林業分野においては、高精度森林情報の取得と活用、ロボット技術やドローンの活用による省力化、生産性の向上など、新しい林業の展開が期待されています（写真1）。

従来、広大な森林の管理やアクセスの悪い林業地の利用にはいろいろな困難が指摘されてきました。それらの課題を、新しいセンサーなどの計測技術、相互に連携する情報通信技術の活用によって、森林経営の効率化、熟練技術者の世代交代、精密な林業の推進などにつなげ、持続可能な森林経営とSDGsなどの世界的な目標の達成を目指すものと理解できます。

スマート化された森林管理の多様な将来像が期待されますが、ここでは、森林のモニタリングと情報共有のための森林クラウドプラットフォーム、市町村や林業事業者における課題解決の展望などについて、紹介したいと思います。

森林のモニタリング

モニタリング（監視）というと、少しいかめしいですが、要は日々の観測、それも定点観測が重要と思います。世界の森林については、重要な生態系などに固定試験地を設定して、様々なプログラムやプロジェクト予算によって、継続的な観測が実施されています。多くの国や地域では、広大な森林に関して統計的標本調査を実施しています。これらの成果はFAOによって、逐次報告されています。

国内の森林に関しては、GHQによる戦後すぐの航空写真撮影が端緒で、日本におけるリモートセンシング（遠隔探査）の始まりだと思います。当時は敗

戦国日本にどの程度の森林資源量があるのか、調査をしたものと思いますが、その後、統計的調査、全国に3,000点や1万点の調査プロットを設定し、全国統一的手法で、森林資源調査を行ったものです。

その後IBP（国際生物プログラム）などによる重点生態系調査と全国に4kmの格子点の網をかぶせ、森林であれば、現地調査を行うという、NFI（国家森林資源調査）が設定されました。当初は、温暖化対策に関する基礎調査という設計でしたが、その後、5年ごとの継続にあたり、森林生態系多様性基礎調査として、炭素固定の蓄積量推定だけでなく、より広範囲な森林の動態調査となっています。

全国に約1万5千点の調査プロットが設定されており、平成11（1999）年度から、5年間で全国を一巡するサイクルとして実施されています。調査プロットは半径が17.84 mの円形プロットで、面積にして0.10 haと小さいですが、2024年度から6巡目の調査が実施され、これまで、約25年間のデータ蓄積があります。

この調査は格子点上の標本調査ですが、近年都道府県単位では、航空レーザ計測（LiDAR）に基づく詳細な3次元点群データが整備されつつあります。標本点データと流域単位レベルの面的データを活用して、今後の森林管理を高度化することが望まれています。



写真1 皆伐作業をドローンで進捗確認（尾鷲市）

情報プラットフォームとしての森林クラウド

近年いろいろな産業分野において、クラウド（雲）上でのネットワーキングが利用されています。従来はデータやアプリケーションを特定の専用ネット

ワーク上で利用する形態でしたが、より一般的なネットワークサービスを利用し、コンピュータ資源を共有しようとする技術です。

森林分野に関しては、前述の国家森林資源調査や県別の森林簿、空中写真、LiDAR計測の高精度森林資源情報などを共有して利用する試みです。ベースになるのは森林GIS（地理情報システム）ですが、いろいろな情報の基盤システム（プラットフォーム）になることが期待されています。国や県のシステムと市町村や森林組合などの林業事業体とも連携が可能になり、森林管理や木材生産、製材分野などとの連携も各地で導入されています。

例えば「森林境界の不明確化」に関しても、過去の空中写真で新植時の状況が確認できれば、現在と比較して、境界が明確になるかもしれません。また、過去に行われた様々な森林施業の実態も、時系列的に森林の姿の変遷を確認できれば、その成果の検証や森林施業計画の作成に貢献可能と思われます。

将来の林道計画の作成や緊急度の高い間伐対象森林の抽出など、地域における森林管理計画の作成にもその活用が期待されます。



写真2 ドローンによる林分写真（亀山市）
（樹冠範囲、樹頂点、胸高直径、樹高値を追記）

地域における森づくりの実践

三重県においては、「三重の森林づくり基本計画2025」がスタートしました。4つの基本方針に数値目標が設定され、方針4では、「森林づくりへの県民参画の推進」があげられています。森林環境税の認知度もあがり、県民、NPO、企業などから、地域の財産区、自治会や個人でも、様々な主体から森林づくりへの関心が高まっています。

大学でも、樹木の樹勢衰退や野生動物対策など、様々な技術相談に応じて、基礎研究の紹介から普及可能な技術開発に関わっています。一例として、間伐作業においてコストのかかる選木作業について、

最近のドローン技術を応用した間伐選木作業の実験を紹介します。

三重大学演習林の技術職員による選木結果を用いて、地上（現場）で行う選木作業とドローンデータから行う選木作業の比較を行いました。間伐方法は下層間伐で、本数間伐率20%程度を設定しました。立木情報は樹高、胸高直径、オルソ写真から目視で手動抽出した樹冠領域を利用しました。

技術職員によるドローンデータ（写真2）の選木と現場確認後の選木の比較では、一致率が58%となりました（図1）。選木が一致した立木は明らかに樹冠や胸高直径が小さい立木で、一致しない場合は隣り合う立木で選定結果がずれている場合が多くみられました。地上での選木では、太り（胸高直径サイズ）、樹冠の広がり、曲がり、傷の有無、隣接する立木との関係性、作業道に隣接している立木は選定されないなど、個体条件と立地条件、将来性などを総合的に判断して選木が行われていました（吉井ら、2021）。

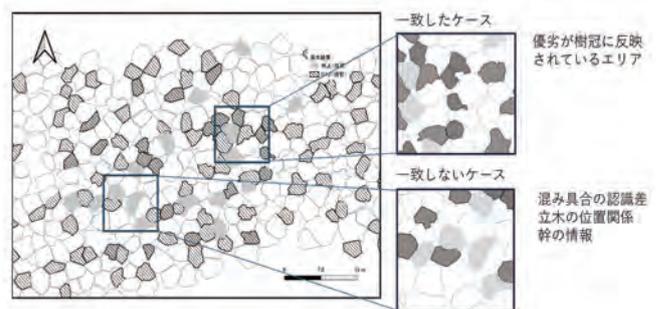


図1 ドローンと現場での選木結果の比較

このような写真は間伐を担う森林組合などの事業体が森林所有者へ提示する資料としても利用が可能で、客観的な証拠に基づいた森林施業を提案するために重要な資料になるでしょう。

おわりに

森林環境税の本格運用によって、多くの人々が森林に関心を寄せており、税金で森林管理を進める以上は、現状報告と将来像を明確に示す必要があるでしょう。さまざまな主体による森林整備活動を、フォレストラーを始め、林政アドバイザーなどと協働活動を進め、SCM、スマート林業の推進、脱炭素社会の実現を目指したグリーンDX事業など、多様な「チーム森林」で、「令和の森づくり」を進めていければと思います（松村、2025）。

引用文献

- 吉井ら(2021)間伐選木作業への UAV の応用可能性の検討、中部森林研究69：57-60
- 松村直人 (2025)森林計測技術の革新と森林計画の実際、山林1688：15-23

スギ・ヒノキの苗木の品種や生産方法について ～ 特定苗木やコンテナ苗を知っていますか? ～

林業研究所 主幹研究員兼課長 東川 恵美

林業は植栽してから収穫までに数十年の長い年月を要します。この間、林木は厳しい自然環境の下で生育するとともに、容易には植替えができません。そのため、収穫時に得られる材の量や質は、環境条件や施業方法と並んで、どのような「苗木」を用いたかが大きく影響します。

今回、林業用種苗の品種や生産方法等を紹介します。

1 現状と課題

三重の森林づくり基本計画2025では、適正な伐採と確実な更新、県産材の利用促進を通じ、将来にわたる森林の多面的機能の発揮や林業・木材産業の持続的な成長を図ることとしています。

また、社会問題となっているスギ花粉症対策においては、令和5年に関係閣僚会議でまとめられた「花粉症対策の全体像」で、10年後にスギ人工林を約2割減少させることを目標に、伐採・植替えの加速、スギ材需要の拡大、花粉の少ない苗木の生産拡大などを集中的に推進することとされています。

三重県内の人工林面積の約8割が50年生を超え、豊富な森林資源が利用期を迎えているなか、今後、主伐と再造林が進められていくことが予想されます。このような背景から、健全な森林を育成するために重要となるのが林業用種苗、苗木の適切な選定です。

林業用種苗については、成長、通直性等の優良品はもとより、産地、品種、耐寒性等の遺伝的優良品の確保が重要です。優良な種苗を使用することで、成長が早く、病害虫や気象害に強い森林を育成することができ、結果的に高い生産性と持続可能な森林経営が実現します。



写真1 植栽風景



写真2 育苗中のコンテナ苗

2 花粉の少ない苗木等の品種について

現在、花粉が全くない又はとても少なく、成長が早いなどの優れた特性を持つ品種が国の研究機関を中心に開発されています。これまでに、スギについて少花粉品種148品種及び低花粉品種16品種、無花粉品種31品種、ヒノキについて少花粉品種55品種が開発されています（令和6年度末時点）。

それに加え、「森林の間伐等の実施に関する特別措置法」（平成20年法律第32号）に規定する農林水産大臣が指定した特に成長等がよく、花粉が少ない特性をもつ特定母樹から採取された種穂から育成された苗木（以下「特定苗木」という。）があります。

特定母樹の指定基準は以下のとおりです。

- ①成長量は、在来の系統と比較して1.5倍以上の材積
- ②材の剛性は、同様の林分の個体の平均値と比較して優れているもの
- ③幹の通直性は、曲がりがないか、曲がりがあっても採材に支障がないもの
- ④花粉量が一般的なスギ・ヒノキのおおむね半分以下

表-1 | 花粉の少ない苗木の特性一覧

苗木の種類	花粉量	特性
無花粉苗木	0%	花粉を全く生産しない
少花粉苗木	約1%以下	ほとんど花粉を生産しない
低花粉苗木	相当程度低い	雄花の着花性が相当低い
特定苗木	50%以下	花粉量が一般的なスギの概ね半分以下 成長量が1.5倍以上の材積、材質が良い
従来の苗木	100%	通常に生産する

*いずれの品種も林業用種苗として適した特性を有する

これら、花粉の少ない苗木の品種のほかに、スギ・ヒノキでは成長が優れ、さらに材質、通直性その他特性に欠点がないエリートツリー（第2世代精英樹）があります。

3 苗木の生産方法

(1) 苗木の種類 実生苗とさし木苗

実生苗とは、種子から育てた苗木を指します。実生苗の元となる種子は、県や認定特定増殖事業者が管理する採種園で生産されます。採種園では、成長がよく花粉が少ないなどの特性を持つ9種類以上の優良品種の母樹を混交して植栽し、遺伝的に多様で優れた種子を生産することができるように配慮しています。メリットとして、必要とする性質を持つ採種木の選択幅が広く、さし木苗に比べ、遺伝的な特性に起因する気象害や病虫害等の大規模な被害を受

けにくい点があります。一方、デメリットとして、成長等にばらつきなどがあり、スギ・ヒノキ等の種子の発芽率等は年によって大きく異なることがあります。

さし木苗とは、目的とする母材料から枝等の一部分を切り取って、土や砂などのさし床にさし付けて発根させて育てた苗木を指します。メリットとして、遺伝的に親と同じ性質の苗木を生産することができ、成長や抵抗性に個体差が小さく、苗木の品質管理が比較的容易です。一方、デメリットとして、遺伝的な特性による気象害、病虫害等の被害を受けた場合には大きな被害になるおそれがあることや系統によっては発根率が低くさし木に向かないこと、大量の苗木を生産するためにはさい穂量に応じた採穂園の面積が必要で、管理経費の面で負担が大きいという点があります。



左：スギの種 右：ヒノキのさし穂

(2) 苗木の形状の種類 裸苗とコンテナ苗

裸苗とは、苗木等で育成し、出荷時に根が露出している苗木を指します。メリットとして、価格が安く、根や枝張りが良く、軽量で植栽時の苗木運搬が容易です。一方、デメリットとして、植栽時期が限定され、根が乾かないよう保管し、できるだけ早く植栽をする必要があります。また、根を広げて植える必要があり、コンテナ苗に比べて手間がかかります。

コンテナ苗とは、育成する容器の内側に縦筋状の突起や細長いスリットを設けることにより、水平方向の根巻きを防止するとともに、底面を開けることで空気根切りができるコンテナ容器を用いて育成した根鉢付きの苗木を指します。メリットとして、根鉢があることで乾燥ストレスの影響を受けにくいことから、裸苗の植栽に適さない時期も含め幅広い期間で植栽が可能です。そのため、伐採と造林の一貫作業に用いやすく、造林コストの低減が期待されて

います。また、均一的な形状の根鉢であるため、鍬のほか、専用の植栽器具を使用することで、誰でも容易に植栽ができます。一方、デメリットとして、価格が高く、根は容器のサイズで成長の制限があること、生産時に育苗密度が高くなることから、少しひょろとした苗になりやすくなります。また、根鉢があるので重く、裸苗に比べ、運搬効率が悪いことが挙げられます。

表-2 | 裸苗とコンテナ苗の比較

	価格* ²	植栽効率	運搬効率	植栽時期	植栽後の成長
裸苗	○ 100~120円	○	○	○ 春・秋限定	◎ 初期の成長がとても良い
コンテナ苗	△ 183円	○~◎ 専用器具で効率的に植栽可能	X~△ 根鉢が重い	◎ 植栽時期が長い	○ 若干遅い

*標準を○とする、*²令和7年三重県山行苗木標準価格表を参考

植栽の時期や場所、運搬方法、伐採から植栽までの一貫作業をするかどうか等を検討し、裸苗とコンテナ苗のどちらを使用するか選択することが重要です。



左：裸苗、中：コンテナ苗、右：コンテナ苗根鉢

4 最後に

優良な林業用種苗は、健全な森林の育成に不可欠であり、長期的な森林経営の基盤を支える重要な要素です。林業用種苗の重要性を理解し、その選定と生産に関心を持つことが、持続可能な森林づくりにとって大切です。

(参考・引用文献)

- ・講習会テキスト林業種苗の生産・配布に必要な知識
- ・国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センターホームページ 花粉発生源対策のための育種 <https://www.ffpri.go.jp/ftbc/business/sinhijnnsyu/kafunsysyotaisaku/kafunsysyotaisaku.html>
- ・三重の森林づくり基本計画2025

みえ森林・林業アカデミーの 令和8年度受講生を募集!

みえ森林・林業アカデミーでは、令和8年度の基本コース受講生を募集します。

募集する
コース

- ◆ **ディレクター育成コース** (募集定員：5名程度、1年次:年間21日、2年次:年間11日程度)
- ◆ **マネージャー育成コース** (募集定員：10名程度、年間15日)
- ◆ **プレーヤー育成コース** (募集定員：10名程度、年間12日)

応募資格 18歳以上の方で、アカデミー受講修了後に、林業・木材産業に関わり、活動することに意欲のある方

募集期間 令和8年1月16日(金)~令和8年2月16日(月) 17時まで

問い合わせ先 三重県林業研究所アカデミー運営課 電話 059-262-5350 FAX 059-262-0960

詳しくは、ホームページ (<https://miefa.pref.mie.lg.jp/>) をご覧ください。

地域	区分	樹種	長さ	径	品質	平均価格	高値	前回は	市況
松阪	素材	スギ	3m	16~18cm	並	13,500	14,000	↓	(供給動向、価格概況、先行き等) 【素材】 ・ヒノキ良質材は売りやすい状況が続いており、高値で販売されている状況。 並材も引き合いが強く、安定的に売れている。 ・スギは、一部の良質材のみ売れている様子。 全体的にはやや低調 【製品】 ・ヒノキ、スギとも造作、枠材の単価は 横ばいではなく売れている感じ。 ・特一材の動きは依然出てこない。
			4m	20~22cm	並	13,500	14,000	↑	
			4m	24~28cm	並	13,500	14,000	↓	
		6m	18~20cm	並	17,000	18,000	↓		
		ヒノキ	3m	16~18cm	並	22,500	23,000	↑	
			4m	20~22cm	並	23,500	24,000	↑	
	4m		24cm以上	並	21,000	23,000	↑		
	製品	スギ	3m	10.5×10.5cm	特一	80,000	90,000	→	
		ヒノキ	3m	10.5×10.5cm	特一	90,000	100,000	→	

※価格は消費税抜きとし単位は円/m³。積込料、取扱手数料は含まない。製品はいずれもKD材。 前回は10月の市況との比較。

三重の林業(令和7年11月号)を読んで

~読者モニターの皆さんから感想とコメントをいただきました~

(みえの森林フェスタ2025尾鷲を開催しました)

・森林や木を身近に感じる良い機会だと思う。

(躍動する林研グループ 熊野林星会)

・サーゲイゲームは遊びながら製材の魅力を感じられるのが新鮮。メンバーの世代が変わっても活発に活動を続けて欲しい。

(ヤマザキ椎茸園が全国乾燥椎茸品評会で林野庁長官賞を受賞)

・原木へのこだわりが凄く伝わってきた。大径木は肉厚ないたけができると知って興味深く感じた。

(みえチェーンソー技術大会を開催しました)

・作業者や周辺に対する安全の確保の面でも技術の向上が図られると良い。

(林業普及指導員近畿ブロックシンポジウムを開催しました)

・普及員の皆さんの活躍により林業がより良い方向へ向いていることを期待します。

(林業体験ツアーを開催しました)

・本気で林業を考えるきっかけになるため今後の取組にも期待しています。

(三重大学生物資源学部2年生が林業研究所などを見学)

・将来の進路を考える際に視察研修で得たことが参考になると良いですね。

(三重県に移住して木工をはじめました)

・イベントや道の駅で古菌さんの作品を拝見できることを楽しみにしています。

(長森なあなあ日常)

・心に響く文章で読むたびに背中を押して貰っているような気持ちになる。客観視してお互いの意思疎通を図る事の重要性を思い出して凄く共感した。

(古川林業(株) 四日市事業所展示場長 山下順弘さん)

・柱を作り出す過程を見ることが出来るのは貴重な体験。ただ完成した柱を見るよりも愛着が湧いて良いと思う。

(三重大学:素材生産のための幹線整備は遅れているのか)

・幹線林道の整備目標→林道を利用する森林面積→森林ゾーンニングに基づく面積算出と考察が進んで行くのが面白い。

(ドローンを活用した造林初期のモニタリング)

・これからもドローンによる造林地のモニタリング手法の開発に取り組んで欲しい。

※いただいた感想、コメントを事務局で集約し掲載しています。



森林はさまざまな公益的機能を持っています。

三重県森林協会は、豊かで災害に強い森林づくりを目指して活動しています。

治山・林道等の森林土木関係の標識板等の注文にも応じています。
お気軽にご相談ください。

一般社団法人 三重県森林協会

TEL 059-228-0924 FAX 059-228-3220

台風・山火事などの災害による森林の損害に備え、森林保険にご加入ください。



「加入してよかった！」

お問合せ・お申込みは、お近くの森林組合または三重県森林組合連合会まで

守ろう地球と地域の環境 ー緑と水を育む水源林づくりー

私たちは森林整備センターによる
水源林造成事業を進めています。

三重県水源林造林推進協議会

〒514-0003 津市桜橋1丁目104(林業会館内)
TEL 059-228-0924 FAX 059-228-3220

森林づくりの(わ)を広め、健全な森を次の世代へ



植える 緑化から 使う 緑化へ

みんなの思いを、緑の募金でつなぎましょう

公益社団法人 三重県緑化推進協会

〒514-0003 津市桜橋1丁目104番地
TEL (059) 224-9100 FAX (059) 224-9118

緑の募金ー三重緑化基金

林業用苗木の生産・販売

ー緑資源は優良苗木でー

三重県林業種苗協同組合連合会

会長 辻 和彦

津市桜橋1丁目104 林業会館内
TEL 059-228-7387



地元で育まれた品質の確かな

「三重の木」認証材で家を建てよう!

「三重の木」利用推進協議会

TEL.059-228-4715 <http://www.mienoki.net/>

三重県木材組合連合会 三重県木材協同組合連合会

会長・理事長 落合賢治

津市桜橋1丁目104 林業会館内
TEL 059-228-4715

みえ森づくりサポートセンター

「みえ森づくりサポートセンター」は、みなさんの森林教育、
森づくり活動の支援を行う施設です。ご活用ください。

〒515-2602 三重県津市白山町二本木3769-1 三重県林業研究所 交流館内
TEL 059-261-1223 FAX 059-261-4153
mail miemori@zc.ztv.ne.jp web <http://www.zc.ztv.ne.jp/miemori>
(三重県が公益社団法人 三重県緑化推進協会に委託し運営しています。)



「林業就業希望者の相談対応」、「林業人材育成研修」、「林業経営体支援」など
林業に関する総合的なサポートを行います!

林業を支える人々を応援します、

森林を未来へ繋げるために



公益社団法人

みえ林業総合支援機構

津市白山町二本木3769-1 三重県林業研究所交流館内
Tel : 059-261-1398 HP : <http://miekikou.jp>

インテリアからエクステリア等 **木製品** **伐採 チェンソー・草刈機**

お任せください!

中勢森林組合 **見積無料!!** 三重県津市白山町南家城 915-1 **STIHL Shop®**
 TEL 059-262-3020 <http://www.chusei-forest.jp> TEL 059-264-1070

森林・木材販売に関することならなんでもご相談下さい!

 伐採作業
 高枝切作業
 園床きの生産
 液体ガラス改質木材
 家具製作販売
 足場・支柱 製造販売

Forest 松阪飯南森林組合
 【本所】〒515-1411 三重県松阪市飯南町粥見 5725-3
 TEL 0598-32-3516 FAX 0598-32-3545
 ◆各支所所在地についてはHPをご覧ください <https://mi-sinrin.or.jp>

三重で木のこころ **OKO 緑オオコーチ**

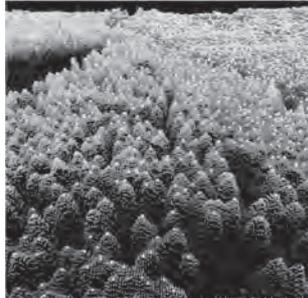
三重のサステナブル建築アワード受賞
 みんなの信頼をコントロールする優良企業
 M3認定工場
 三重の木造緑工場

三重県大紀町大原町 473 TEL: 0998-26-1156 FAX: 0998-26-0606 Email: info@okochi.co.jp HP: <https://www.okochi.co.jp>

熊野の森から、やさしさをあなたへ
株式会社 nojimoku
 〒519-4324 三重県熊野市井戸町 4185-18
 TEL: 0597-85-2485 FAX: 0597-85-4056
 HP: <http://nojimoku.jp>

のじもくま

航空レーザ計測技術を活用した ICT 林業を推進



アジア航測株式会社
 三重営業所
 三重県四日市市安島一丁目5番10号
 KOSCO四日市西浦ビル
 TEL: 059-342-0501 FAX: 059-342-0503
 森林環境課・森林情報課
 神奈川県川崎市麻生区万福寺1-2-2 新百合21ビル

<http://www.ajiko.co.jp/>

持続的な林業経営を目指して

三重県林業経営者協会

会長 速水 亨

度会郡大紀町滝原870-34 ひのき家内

止るはじ



oh// 0120-82-1955